

# ベネッセSTEAMフェスタ2022

## プレインタビュー 第5回

全国の中高生が探究や研究の内容を発表し、意見を交換して、多様な人と学び合う「ベネッセSTEAMフェスタ」。  
3月19日(土)26日(土)の開催に先駆けて、エントリーしたチームを紹介します。

### 東京都 豊島岡女子学園中学校・高校

チーム名 **タコライス** 発表タイトル **「東北応援メニュー ~これからの未来へ~」**

## 東北の特産品を使って、お弁当向けのメニューを考案

### Q. 探究テーマを選んだ理由は？

**メンバー** 私たちの学校では、中学1年生から探究学習に取り組みます。そのテーマの1つが「東北応援メニューを考えよう」でした。東日本大震災当時、宮城県仙台市に住んでいたメンバーから、「自分が行動することで力になりたい」という提案があり、1年生の時に同じクラスで一緒に行動することが多かった5人が集まりました。

### Q. 探究の内容や発表の見所を教えてください！

**メンバー** 東北地方の現状を調べると、震災からの復興に加えて、人口減少への対応が課題であることが分かりました。それらの問題解決に結びつくよう、人口減少が著しい地域や東日本大震災で被害の大きかった地域の特産品を使いつつ、私たちと同世代に東北地方の現状に目を向けてほしいと考え、生徒が毎日食べるお弁当のメニューを考えることにしました。

東北6県を1人1~2県ずつ分担し、その県の特産品や郷土料理などを調べ、メニューを考え、家で調理・試食をしました。青森県はリンゴご飯、岩手県はタラとキャベツのクリーム煮、宮城県はホタテとワカメの炊き込みご飯、秋田県は鶏の粗挽きメンチカツ、山形県は芋煮、福島県は桃のデザートです。例えば、宮城県はお米にしましたが、数ある品種の中からどれを使えば応援できるのかを考えて選びました。そして、各自が調べた内容や調理方法、味の感想などを共有。「汁気の多いものは弁当に入れづらいのでは?」「ブランド食材を使って復興に役立つかな?」などとディスカッションをして改善点を伝え合いました。1人では思いつかなかった点を指摘されて、5人で取り組めば気づきは5倍になるのだと実感しました。

### Q. フェスタへの期待を一言!

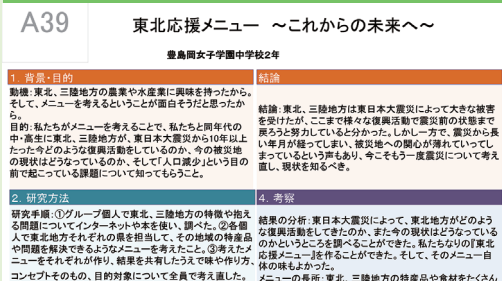
**メンバー** フェスタは、私たちが目標に掲げている、同世代に東北の食材を使った応援メニューや東北地方の現状を発信する絶好のチャンスになると思います。学校外の方々に説明するのは初めてですが、ぜひ私たちの研究を聞いていただき、東北地方への関心を高められればうれしいです。

#### チームメンバー



メンバーは中学2年生の5人。中学1年生の時のクラスメートで、このメンバーでクラスの活動をよく行っていました。

#### 発表ポスター



校内発表をした時のポスターです。プレゼンテーションソフトを使ったのが初めてで、何度も書き直し、まとめました。納得するメニューができましたが、目標とした人口減少の問題にどうつながるか分かりにくいと気づきました。それをどう改善するかが、今後の課題です。



外部発表は、初めてのチームです。全国の方々から意見をいただき、どんな成長をするのか楽しみです。

指導担当 藤野優佳先生

「5人いれば気づきが5倍」は、大切ですね。その気づきの広がりをフェスタでも体験してください!



ベネッセ事務局 芦野恒輔

今回で13回目となる「ベネッセSTEAMフェスタ」には、全国の中学・高校から110チーム約280人がエントリー。多種多様な分野から発表されます! 詳しい開催概要は、下のURL、または右の2次元コードからアクセスしてご覧ください。  
<https://steamfesta.benesse.co.jp/>

